

## Book Review

著：鈴木水鳥 監修：山口英明

### 子どもをみる医師のための 子育て漢方



中外医学社  
2025年1月発行  
360頁（A5判）  
5,280円（税込）

久しぶりに「ドックイヤーだらけ」になった一冊だった。漢方の知識にとどまらず、日々の小児診療でよく遭遇する臨床的課題に直結する実践的な視点が数多く盛り込まれており、新たな示唆に富んだ内容である。

本書は、小児科・アレルギー専門医であり漢方専門医でもある著者が、漢方の基本概念や小児に頻用される処方、その適応や使い方を平易に解説した実用的なガイドブックである。副作用や診察時の工夫にも触れられており、漢方を初めて学ぶ医師にも取り組みやすい構成となっている。なかでも印象的だったのは、第1章「子育て漢方とは～家族のみかた～」で示された視点である。子ども単体ではなく家族全体、とくに母親の不調にも目を向けて診療を組み立てるという考え方は、子どもの不調と保護者の不調が連動していると感じながらも対応に歯がゆさを覚えていた方に、大きな気づきを与える内容だろう。

また本書では、西洋医学による診断と治療をまず重視しつつ、漢方と併用する現実的な診療方針が示されており、信頼性が高い。起立性調節障害、睡眠障害、こころの不調など、西洋医学だけでは対応が難しい症状へのヒントも豊富に得られた。

本書は子どもを診る医師すべてに、そして「子育てを支える視点」を大切にしたいと願う方々にぜひ手に取っていただきたい温かさと実用性を兼ね備えた一冊である。

（賛育会病院小児科 小松充孝）